

指定管理者制度導入施設の第三者評価結果

開催日	平成27年8月25日	
公の施設の名称	芦屋市立美術博物館	
指定管理者の名称	小学館集英社プロダクション共同体	
所管課名	社会教育部生涯学習課	
指定期間	平成26年4月1日～平成31年3月31日	
所在地	芦屋市伊勢町12番25号	
施設概要	芦屋市立美術博物館（展示室、講義室、体験学習室、ホール、小出檜重アトリエ、喫茶室）開館時間平日10:00～17:00（但し、入館は16:30まで）	
業務概要	芦屋市立美術博物館の維持管理、利用許可、運営等に関する業務	
収支の状況	事業計画上の金額	実績額
平成25年度収入	73,516,000円	82,045,757円
平成25年度支出	73,506,000円	89,275,133円
平成25年度収支	10,000円	-7,229,376円
平成26年度収入	78,614,000円	79,481,879円
平成26年度支出	78,614,000円	76,965,007円
平成26年度収支	0円	2,516,872円
芦屋市指定管理者 選定・評価委員	氏名	所属・役職
	高原 利栄子	近畿大学経営学部 准教授
	中村 尚代	芦屋市 社会教育部長
	藤川 千代	藤川公認会計士事務所 公認会計士
	弘本 由香里	大阪ガス株式会社エネルギー・文化研究所 特任研究員
評価対象期間	平成26年4月1日～平成27年3月31日の1年間	

評価項目	説明	点数	得点率	評価
①適正性		各40 160	65%	B
施設保守・運営管理	施設の保守、管理が適正に実施されているか	20		
従業員管理・研修計画	適正に従業員が配置され、労働環境が保持されているか 従業員研修が十分に実施されているか	26		
危機管理	事故・緊急時の体制が十分に整備されているか	28		
個人情報管理	個人情報の管理が適正であるか	30		
②効率性		各40 120	70%	B
事業収支	事業収支は適切に算出され、計画に沿っているか	30		
財政基盤	財政基盤は安定的にサービスを提供できる状態にあるか	28		
内部統制	業務運営に関する内部統制は有効に機能している	26		
③有効性		各40 120	58%	C
事業計画性、透明性	事業が計画的に、かつ透明性を確保して実施されているか 提案されていた自主事業等に計画通り、取り組んでいるか	22		
サービス向上	サービス向上の取組みがされているか	26		
住民・利用者の参画	住民または利用者とのパートナーシップを推進しているか	22		
		得点率	65%	B

利用状況等	項目名	平成26年度	平成25年度	平成24年度
		実績	実績	実績
	入館者数	26,646人	33,040人	27,540人
	内、有料入館者数	6,843人	7,822人	7,641人
	内、無料入館者数	19,803人	25,218人	19,899人
	自主事業参加者数	3,236人	4,569人	-人

総合評価	評価の理由
B	施設の維持管理については、業務仕様書や事業計画書に基づき、概ね計画どおりに実施されている。開館から20年以上が経過し、設備の老朽化が進んでいることから、市と指定管理者で協議しながら必要な整備・改修工事を実施し、来館者の安全性と利便性の向上に努めること。今後は更に、芦屋文化ゾーンの施設、関係機関・団体や企業等と連携し、効果的な事業の実施を進めていただきたい。また、小中学校などへの積極的な働きかけも期待する。

総合評価結果		得点割合	
S	優良	90%以上	目標・計画を大きく上回る。優れた管理運営が行われたもの
A	良好	75%以上	目標・計画を上回る。良好な管理運営が行われたもの
B	適正	60%以上	計画に沿ったものである。適正な管理運営が行われたもの
C	要努力	60%未満	目標・計画を下回る。一部に課題がある管理運営が行われたもの

講評及び次期指定に向けての課題等

指定管理者に対する意見	施設所管課に対する意見
<p>【備品の管理】 指定管理業務開始以前からの課題でもあるが、現物に備品ラベルがあっても、その内容が消えているものが多い。一度、実地棚卸を行い、管理表を作成し、これをデータベースとして今後の現物の管理を行っていく必要があります。 適正管理できるように市と連携の上、台帳整備に努められたい。</p> <p>【事業収支等】 平成26年度は、入館者数が減少しているが細やかなコスト削減を行い、コスト意識高く取り組み、収支を改善していることは評価できます。</p> <p>【広報活動】 SNSの活用等、新たな情報発信も行い効果も出しつつあるが、入館者数の目標や対前年度比ともに下回る結果となっている。今後は、市と連携して、市内の幅広い年齢層をターゲットにした広報をより一層推進することを期待します。</p> <p>【事業計画・入館者数等】 計画的に工夫しながら事業を実施しており、概ね評価はできるが、入館者数の最終年度の目標である5万人にはほど遠く、現状では過大な提案であったと言わざるを得ません。公募により選定された共同体であり、目標に近づけるための更なる実現性のある事業実施を求めたい。</p> <p>【学校教育・生涯学習との連携】 トライやるウィークなどの受け入れなどは行われているが、積極的な実施とまではいっていない印象です。さらに市と連携して、戦略的に取り組む必要があります。</p> <p>【文化ゾーンでの連携】 同じ文化ゾーンにある芦屋市谷崎潤一郎記念館や図書館との連携が不足している。積極的に他施設とも連携を図り、事業を展開していただきたい。</p>	<p>【施設の維持管理について】 開館から20年以上が経過し、設備の老朽化が進んでいることから、施設及びそれぞれの設備の保守・点検についても状況を把握し、適正に維持管理されるように注視してください。</p> <p>【備品の管理】 現物に備品ラベルがあっても、その内容が消えているものが多いとあり、備品ラベルを市から指定管理者に渡しておらず、指定管理業務開始以降には、張替え等が行われていないことが起因している。市の備品台帳の更新とこれに基づく現物の確認が必要であり、指定管理者と連携しながら速やかに備品台帳を整備していただきたい。</p> <p>【収集・保管管理、調査研究等】 コスト改善は評価できるが、その反面、必ずしも収益につながらない収集・保管管理や調査研究の重要な業務が削減されることも懸念されるので、美術博物館の役割が損なわれぬよう監理していただきたい。</p> <p>【学校教育・生涯学習との連携】 指定管理者と学校等が連携・協力して、文化芸術に触れる感動や楽しさを伝え、文化芸術体験・表現教育を推進するため、その連携を図っていただきたい。</p> <p>【文化ゾーンでの連携】 同じ文化ゾーンにある芦屋市谷崎潤一郎記念館や図書館との連携ができるように、市としても積極的に関わっていただきたい。また、次期選定時には、文化ゾーンでの連携を図りながら事業展開することを仕様書等にも記載し、推進していただきたい。</p>